

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	アジア地域研究科
評価基準 5	学生の受け入れ
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
評価の視点	求める学生像の明示
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
	障がいのある学生の受け入れ方針
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
評価の視点	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
点検・評価項目(3)	5-3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
評価の視点	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
点検・評価項目(4)	5-4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

5-1	・アジア地域研究科では、学生の受け入れ方針として、課程ごとにアドミッション・ポリシーを以下のように明文化している。 (博士課程前期課程) アジア地域研究科アジア地域研究専攻は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成と実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、下記のような学力及び意欲を有する人物を求める。 1. アジア地域研究を学ぶのに十分な基礎学力を有する人 2. アジア地域研究を学ぶのに必要な言語運用能力を有する人 3. アジアの現代化とアジアの伝統規範の再生について高い問題意識を持ち、国際的な広い視野に立脚した研究能力の獲得を目指す人 4. グローバル社会の一員として国際協力や国際交流に貢献できる高度な職業能力の獲得を目指す人 (博士課程後期課程) アジア地域研究科アジア地域研究専攻は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成と実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、下記のような学力及び意欲を有する人物を求める。 1. アジア地域研究を学ぶのに十分な学力と言語運用能力を有する人 2. アジアの現代化とアジアの伝統規範の再生について深い洞察力を有し、国際的に認知・評価される水準の論文の作成を目指す人 3. アジア地域研究の専門家としてグローバルに活躍できる高度な研究能力や職業能力の獲得を目指す人 ・障がいのある学生を受け入れる手続きについては整備を進めているが、入学後の学修支援等を含めた受け入れ方針については、大学全体としても研究科レベルでも未整備で、今後の課題である。
5-2	・本研究科は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている。 1. 受験生の便利を図って、毎年度、下記の試験種類に分けて三回の募集を行っている。 ①秋季試験（4月入学）②春季試験（4月入学）③7月試験（9月入学） 2. 多彩な人材を確保するため、次のような入試方式を採用している。 ①一般方式 ②社会人方式（社会人とは、大学学部卒業5年以上を経過した者）③留学生方式 ④推薦方式 3. 公正さと透明度を高めるために、すべての入試方式において、当研究科の各地域・分野から選出される8名ほどの面接委員によって口述試験を行っている。 ・学生募集にあたっては、大学ホームページ、大学案内 CROSSING、入試要項などを媒体として周知している。 ・入学者選抜における公平性と透明性を確保するため、入試結果を大学ホームページ、大学案内 CROSSING に掲載するだけでなく、入試問題をホームページでも公開している。
5-3	アジア地域研究科では入学者に占める外国人留学生数の比率が多い。さらに、外国人留学生のほとんどは中国からの留学生である。このため、福島での震災、津波、原発事故および日中間の尖閣諸島をめぐる政治外交上の緊張の高まりを背景に、この数年間、外国人留学生を含む入学者数が定員を下回る状態が続いている。さらに、私学の二極化の流れのなかで、日本人の一般入試および社会人入試をととしての入学者も定員を下回る状態が続いている。このように、この数年間は在籍者数が定員を下回っているが、在籍者に対しては十分な指導陣を確保でき、多様な講義を提供しつつ充実した指導を行っている。

5-4	・学生募集および入学選抜が公正かつ適切に実施されているかは、年度ごとに研究科内部に設置した自己点検・評価委員会により検証を行っている。また、教員と院生を対象としたアンケート調査も毎年実施しており、学生募集および入学選抜についての提言を受け取る体制を整えている。 ・学生募集および入学選抜に関する諸作業において、責任主体と組織、権限、手続きは明確にしている。
-----	---

【効果が上がっている事項】

5-1	アドミッション・ポリシーを公表し、求める学生像および入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を明示している。
5-2	・公平性と透明性の原則に則って、適切に入学選抜を行っている。 ・入試問題を窓口閲覧のほか、ホームページでも公開している。
5-3	
5-4	

【改善すべき事項】

5-1	大学院における障がいのある学生の受け入れ方針の策定。これは一研究科のみで対応できる事項ではないので、全学的な対応の動きのなかで、アジア地域研究科における対応策を具体化する。
5-2	
5-3	収容定員に対する在籍学生数比率のバランスを図る。これは一研究科のみで対応できる事項ではないので、全学的な対応の動きのなかで、アジア地域研究科における対応策を具体化する。
5-4	

Ⅲ 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

① 大学院ホームページ ②アジア地域研究科の手引き

【2014年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	障害のある院生の受け入れ方針および学修支援体制の整備	障害のある院生も受け入れられ、普通の院生とともに勉学できる。	→					
			→					
			→					
14年度 目標	障害のある院生の受け入れ方針および学修支援体制の検討	障害のある院生を受け入れるための認識を共有し、そのための学修支援体制の骨子の案を作成する。	→					
			→					
			→					